

# 市長と与党会派が市民負担増の予算案を強行 値上げと有料化を実施させない闘いの輪をひろげよう

日本共産党京都市会議員団

## 市民負担増を提案し、 強行した市長と与党 の責任は重大

二月十八日から一ヶ月にわたって開かれた二月予算市会  
は三月十八日閉会しました。  
敬老乗車証の有料化、国民健  
康保険料・保育料・施設の使  
用料値上げ、市営葬儀事業の  
廃止など市民サービスを切り  
捨て、市民に大幅な負担増を  
求める〇五年度予算案及び関  
連議案は、与党会派の賛成で

可決成立しました。

日本共産党は値上げ提案そ  
のものに問題があり、審議が  
十分尽くされていないとし  
て、継続審議を求める動議を  
提出した上で、予算案にきつ  
ぱり反対しました。

深刻さを増す市民生活にさ  
らに負担を押し付ける予算を  
提案した市長はもちろん、自  
民、公明、民主都みらい、無  
所属議員の責任はきわめて重  
大です。

市長は今回の値上げ提案の  
根拠として「制度や施設を利

用する人から適正な負担をい

ただく」「制度を持続してい  
くために必要な費用負担をお  
願いする」「利用しない人と  
の公平性を確保する」という  
ことをあげました。その本質  
は低所得者や弱者に負担をお  
しつけることを正当化すると

ころにあります。それは、「住  
民の福祉の向上」という地方  
自治の本旨を投げ捨てるもの  
であり、昨年の市長選挙での  
市長公約にも反するもので

す。まさに、自治体のあり方  
と市長の政治責任が問われる

### 負担増

#### 赤ちゃんからお年寄りまで

- 敬老乗車証の有料化 **6億円**
  - 国保料の値上げ **8億円**
  - 施設の利用料金の値上げ
    - 地域文化会館○京都会館
    - 地域体育館○ウィングス京都等
- |              |         |
|--------------|---------|
| 住民税非課税       | 3,000円  |
| 年間所得 200万円未満 | 5,000円  |
| 700万円未満      | 10,000円 |
| 700万円以上      | 15,000円 |
- 保育料の値上げ **2億1600万円**
  - 特例保育分の「見直し」
- 20万世帯に影響  
年間所得100万円のモデル世帯  
(2人)で7割増に

重大な問題です。

与党会派は本会議や委員会審議を通じて「敬老乗車証有料化は改革であり、評価する」(自民)「高齢者にがまんをしてもらって子育て支援に予算を使え」(民主)、「利用する人としらない人の負担の公平

## 2月定例会に寄せられた主な請願

敬老乗車証無料制度の継続・改善  
国民健康保険料の値上げ反対  
保育料の値上げ中止  
市営葬儀事業の継続  
更生医療の費用負担の継続  
文化施設使用料の値上げ反対

129件  
153件  
22件  
22件  
19件  
9件

性を確保せよ」(公明)など、値上げや有料化を容認、後押しする発言を繰り返し、市民負担増をいとわない姿勢が浮き彫りになりました。

### これまでにない広がり をつくりだした教訓

党議員団は、今回のたたかいの重要性から議会開会前に「市民の暮らし・福祉守る闘争本部」を立ち上げました。ただちに独自の街頭宣伝や緊急市会報告ビラの全戸配布、宣伝ステッカー作成などに取り組み、「赤ちゃんからお年寄りまで」の値上げの内容を市民に広く知らせる先頭に立ちました。この宣伝は市民的な反響をよび、「よく知らせてもらった」「市民に負担を押しつ

敬老乗車証問題懇談会(2005・2・26)



ける前に無駄な予算を削るべき」「共産党だけが頼りだ。がんばれ」などの激励が次々と議員団や地区委員会に寄せられました。さらに闘いの意義と展望を示したわかりやすい討議資料を作成しました。

議会が開会されてからは、予算報告懇談会(五〇団体五二名参加)や敬老乗車証懇談会(七六名参加)をとりくみ、切実な要求が寄せられ、運動を広げる大きな転機となりました。さらに寄せられた生活に根ざした切実な実態や要求はその後の委員会での論戦に生かしました。

議会をとりまく運動や委員会での論戦はただちに「闘争本部ニュース」を作成(十三号発行)し、関係団体にリアルタイムで報告しました。

同時に、市長の値上げ提案の動きをいち早くつかんだ「くらし・福祉削るな!実行委員会」を軸にした各種団体や市民のみなさんの撤回を求めたたたかいが、かつてない広がりを生み出す大きな力とな

りました。

「敬老乗車証無料制度の存続を求める」「国民健康保険料の値上げ反対」など、市会請願は三三四件となりました。また短期間に五千名を超える署名が寄せられ、保育料の値上げに反対する保護者か



議員に訴える市民（2005・3・4）

らのファクスや要請はがき運動も連日行われました。市長

の地元の老人クラブ会長も請願者となったことをはじめ、委員会審議では、請願趣旨説明を要求し、委員会室前に横断幕を掲げた四回の要請行動や本会議傍聴の組織など、これまでになく運動の広がりが見られたのも大きな特徴でした。

## 市長を追いつめた 党議員団、与党派 との違いがくっきり

党議員団は、小泉「構造改革」の痛みと合わせて市の値上げ提案が及ぼす影響を、市民の生活実態をリアルに示して明らかにし、値上げ案の撤回を求め最後まで奮闘しまし

た。

それに対し市長は、敬老乗車証の負担金三千円（非課税世帯・本人）について「出せないとは、わが国の常識からは考えられない」と開き直り、国民健康保険料についても「広く浅く負担してもらうために改定は必要。払っていただけのもの」と冷たい答弁を繰り返しました。しかし、世論と運動が市長と与党派を追い詰め、最終盤では「敬老乗車証の負担金は」私の任期中は値上げしない」（市長答弁）、「市民に説明すれば納得してもらえるはず」（自民質問）と必死の言い訳と弁解に終始する状況になりました。その中で不十分なながらも、小児慢性特定疾患医療費助成の一部復活を引き出すことがで

きたことは一定の成果です。

たたかいが広がる中、与党派が国民健康保険料値上げに関して、閉会本会議前日の予算委員会予定時間に及んでも態度が決められないところまで追い込みました。与党派の意見の調整が深夜に及び、委員会開催は深夜の二時半を回り、閉会本会議開会時間を二時間延期する異常な事態となりました。最終的に与党派は付帯決議を提出し、「値上げ後の新たな減免措置の手続きを本人の申請ではなく、行政が事前に措置を行う職権減免の実施」を行政に要望したものの、本会議で何の発言もしないまま値上げ予算案に賛成し、市民の願いに冷たく背を向けました。

一方で、「市民負担の前に無



駄をなくせ」の世論と党議員団の論戦の中で、市内高速道路計画の未着工三路線について、与党派は今議会ではとうとう一言も触れることができませんでした。また、焼却灰溶融炉建設についても副市長が「安全神話はない」「批判されれば」ひるむ事もある」と動揺する答弁をせざるをえませんでした。

市民には大幅負担増をおしつける一方で、相変わらず無駄な公共事業推進と同和特別対策事業の継続を盛り込んだ予算案を提案し、賛成成立させた市長と与党派の責任は重大です。

### 「たたかいはこれから」 ：値上げと有料化の 実行ストップを

さらに、今議会会期中に同和事業にかかわる二つの京都地裁判決があり、自立促進援助金の違法性と返還されるべき補助金の実態が指摘されました。議員団は判決も踏まえ、同和特別対策の終結を求めましたが、市長は同和行政を「社会正義の実現」だと強弁し、自立促進援助金の廃止を拒否しました。

市民には大幅負担増をおしつける一方で、相変わらず無駄な公共事業推進と同和特別対策事業の継続を盛り込んだ予算案を提案し、賛成成立させた市長と与党派の責任は重大です。

国会で、自民・公明が強行した今後二年間で七兆円を超える国民負担増と、京都市による今回の負担増があいまって今後市民生活を脅かすことは明らかです。市会議員団は、国会議員団とも結んで負担増から市民のくらしを守るたたかいに全力をあげてがんばります。

同時に来年に迫った知事選挙で、住民が主人公、住民の福祉と暮らしを守る本来の役割を発揮できる府政への転換を目指し、広範なみなさんとさらに要求運動を粘り強く取り組んでいきたいと思います。

## 値上げの一方、無駄づかいこんなに

<p><b>市内高速道路</b> 2路線だけで <b>500億円超</b> 出資金、ランプ建設、民営化に伴う負担増</p>	<p><b>焼却灰溶融施設</b> 全国で事故が多発 <b>230億円</b> ランニングコストは年18億円</p>	<p><b>同和</b> 断てめしがらみ <b>50億円</b> 奨学金の返済免除に今後24年間で支出</p>	<p><b>キンビール</b> 工場跡地開発 <b>30億円</b> 企業がすすめる開発ビジネスをバックアップ</p>
---	--	---	---